

1 題材の概要

題材名：「**クラス彩りデザイン計画**」～美術の力でつくる教室環境～

A表現（1）イ「伝える、使うなどの目的や機能を考え、デザインや工芸などに表現する活動」

授業の概要：

生徒たちが多くの時間を過ごす教室環境を彩るための企画をグループで協働して行い、コンセプトをもとに課題解決、当たり前の見直し、理想の追求などの視点をもとに、条件を考慮しながら生徒自身の力で教室環境をつくる。

	目標	評価規準	評価資料
知識 ・技能	形や色彩、その組み合わせに着目し、教室環境や空間をとらえながら、クラスを彩るためのデザインとしてイメージしたことを追究している。	イメージしたことをもとに、これまで学習した表現の技法や、それらを発展させながら教室環境や空間にふさわしいと考える形や色彩で協働しながら表している。	授業観察・ □イロノート（イメージや制作の記録）・ 作品
思考 ・判断 ・表現	日々を過ごす教室で経験したことから生まれた感情や、そのイメージを課題解決や当たり前（日常）の見直し、理想の追求の視点をもとに形や色彩、構成を考え、グループの仲間と共に構想を練ってデザインの企画をしたり鑑賞したりすることができる。	表現したいと考えたことを、課題解決や当たり前の見直し、理想の追求の視点をもとに、自分やグループの仲間のイメージと合致させたり、調整したりしながら、形や色彩を使って企画・構成したり、鑑賞したりしている。	授業観察・ 作品・ ワークシート・ □イロノート（イメージや制作の記録）
主体的に 学習に取り組む 態度	教室環境を彩るために、条件をもとに、形や色彩を用いたデザインによって作りだすことに興味を持ち、意欲的・探究的に取り組むことができる。	よりよい教室環境や空間をデザインすることに関心を持ち、グループの仲間と協力しながら試行錯誤して教室環境デザインのための制作に取り組んでいる。	授業観察・ □イロノート（イメージや制作の記録）

2 題材の展開

題材の流れ（全6時間）

創造的活動(創作表現)

日常を過ごす教室環境に、課題解決・当たり前の見直し・理想の追求の視点を持つことで、安心感や愛着のある心地よい教室空間を生徒自身がデザインする。

1	①「クラス彩りデザイン計画」～美術の力でつくる教室環境～という題材を知る ②環境や空間に関わるデザインの力について、教科書からその役割や働きについて学習する ③クラスに「なくてはならない」や「あったらいいな」という考えで、教室のエリアごとの写真を鑑賞しながら教室環境についてそれぞれ考える
2	④教室環境について考えを深めはじめたところで、クラスの代表者（評議員生徒）が進行役として中心になり、「2年梅組教室全体コンセプト」について話し合って決定する ⑤クラスを教室前方エリア・教室サイド+廊下エリア・教室後方エリアの3グループに分ける
3	⑥美術室に移動して3つのエリアに分かれ、具体的なデザイン分担をエリア長中心に決定する ⑦デザインの内容について、エリアごとのスライドやWS、個人のロイロノートにアイデアを出す
4 本時	⑧各エリアで「 教室(2U)彩りデザイン計画 」の 3視点※ をもとに、アイデアが出されたデザイン案について一部共有する（クラスの協力が必要な場合にははじめに企画を説明しておく） ⑩グループで協働して制作を進める（同時に写真で残すなどしてスライドにまとめておく）
5・6	⑪制作の続きを行い、デザインを完成させる。 ⑫教室に実際に飾ったり掲示したりする ⑬ロイロノートに活動全体の振り返りを入力して提出する

※次頁掲載

本時の目標

クラスの皆で決めたコンセプトをもとにした教室を彩るためのデザイン案を共有し、意見交換した上でデザインの計画・企画を叶えるために各グループ制作に取り組む。

1. デザインコンセプトや大切にすべき**3つの視点※**のおさらい。視点に関連したデザイン案の一部共有 **10分**
2. 計画した案をもとに、制作を行う。クラスの協力が必要な場合は協力を仰ぐ **30分**
3. 活動の成果の伝達・共有、片付け **10分**

「2U彩いテザイン計画」の3視点

✧✧ 2Uの課題解決！



✧✧ 2Uの当たり前にメス入れ！



✧✧ 2Uのあったらいいのに！

創造的思考のプロセス（試行錯誤と創意工夫）	創造的思考の習慣（赤字はキーワード）
<p>思いや問題に気づく</p>	<ul style="list-style-type: none"> ● 現在までの教室環境の良い面、よりよくできる面について、今まであえて考えていなかった当たり前（日常）を見直す ● クラスの仲間と過ごす環境のデザインとしてふさわしい表現・制約は何かを考える ● これまでクラスの仲間と過ごしてきたことで理解しているクラスのカラーをどう生かすか
<p>アイデアを思い描く【拡散的思考】</p>	<ul style="list-style-type: none"> ● 学級を彩るためのデザインとしてふさわしい形や色彩について考える。 ● デザインが決まってきたら、どのような材料を使うとよいかについてアイデアを広げていく。 ● 形や色彩だけにとどまらず、クラスの仲間のカラーを経験から考え、表現の内容につなげる。 <ul style="list-style-type: none"> ● 材料面から具体的な表現の形や色彩を考える ● これまでの教室環境にはないような、新たなアイデアを恐れず提案する ● 「これが教室にあったなら…」という、理想の追求や、夢を持った視点を大切にする
<p>アイデアを実行する【収束的思考】</p>	<ul style="list-style-type: none"> ● 考えたアイデアの中からより良いと思うものを選択し、どうデザインとして起こしていくか、グループで話し合って吟味する。 ● 教室環境に見合ったサイズ、企画内容を確認する。 <ul style="list-style-type: none"> ● これまでの造形的な表現の経験を思い返し、「よりよいもの」を目指しながらも効果的な表現方法をしぼりこむ ● 各グループでのアイデアが叶えられるか、お互いの考えをを理解し合う
<p>アイデアを振り返る【メタ認知】</p>	<ul style="list-style-type: none"> ● 企画内容がクラスの皆の結束や士気を上げるものとなっているか、現実面を考え、学級環境のデザインとして有効なアイデアであるか確かめる。 ● 他のグループのアイデアや企画に協力する姿勢を持ちつつも、デザインをよりよい内容にするために意見を出し合う。 <ul style="list-style-type: none"> ● 単に「飾る」というアイデアに終始していないか、公共のデザインとしての視点を持つ ● 考えたデザインが教室環境を豊かにするものであるか、見極める

これまでの学級環境づくり

<学級目標掲示物制作>

新たなクラスとなった4月当初は、皆でクラスについて協働して考えることの一つに、必ず学級目標決めがある。担当する2年生の学級では、代表となる評議員生徒2名の司会進行で、クラス全体は5～6名の生活班に分かれて学級目標に入れたいキーワードやフレーズを考えることとなったが、**全体の意見が反映されながら一つの目標となるまで、授業1時間分を優に超えるほどの話し合いを要した。**それだけに、生徒たちは決定した学級目標への納得感や愛着感を持った様子で、日々コメントを書いている生活手帳の記述からも見受けられた。**この愛着心をできるだけ鉄の熱いうちに打ってもらおうとビジュアライズさせたのが、学級目標の掲示物制作である。**担当する梅組はクラスカラーが赤色であることから、担任からより明るいクラスとなるように願いを込めて、同系色であり、赤色より明度の高いピンク色を中心とした空間設計を提案し、制作がスタートした。



制作は、自ら立候補した有志メンバーを中心として行われたものの、**装飾として貼りつける花形の折り紙を立候補したメンバー以外の生徒がつくる光景も見られ、学級目標の制作を通してクラス内のコミュニケーションも広がっていた。**

同じ空間で過ごす仲間の手で表現したものが大きく掲示されていることで、**生徒たちが皆で話し合った末に決まったものがビジュアライズされたことの喜びを感じ、クラスの団結力を支える居場所としての空間演出になってほしいと願っている。**

これまでの学級環境づくり

<クラスの一体感を生み出す掲示物制作>

学級目標同様、クラスびらきの一環として、生徒たちは各々で自己紹介カードを作成する。始業式翌日の口頭で行う自己紹介は、このカードを使用しながら行うことが恒例になっているが、併せて自己紹介後には教室後方の掲示物とすることも慣例となっている。自己紹介から数日後には、「2年生としての目標!!」と題して一年間の個人目標を書く用紙を渡し、生徒たちは自己紹介カード同様、各々で文字やイラストをかいている。

年度始めの学級の仕事として、委員会・係分担、掃除当番表、前述の学級目標等いくつかの掲示物作成が行われる中、担当学級では、自己紹介カードや個人目標が個々のものから一つの掲示物とすることも、掲示物作成の役割のひとつとしていた。しかし、ただ模造紙に貼っただけのものでは“ひとつになった”とは言い難いため、クラスならではのデザイン性を取り入れながら制作することを担任から提案していた。各々が制作したものが一つのクラスのものとしてまとまりを持って掲示されることで、クラスへの心地よい所属感につながることを願う。また、生徒が作成したものの一つひとつが尊重された形の掲示物になることで、“自分の教室”という当たり前の居場所への安心感もつくっていきたいと考えた。



これまでの学級環境づくり

< 体育行事に向けたクラス掲示物制作 >

6月初旬に行われる体育大会に向けた練習が本格的になってきた頃、生徒たちから朝礼や終礼など様々な場で練習のための連絡や**クラスの士気を高める発声や声掛けが頻繁に聞かれるようになっていた**。そこで、体育大会前のクラスの熱量を教室空間づくりにも生かしたいと、体育大会クラスリーダーのアイデアをきっかけに、体育大会の目標を各々が書き、それをひとつの掲示物にするための有志メンバーが集まり、掲示物が制作されていく流れができていた。これは、前述の学級目標や自己紹介カード・2年生の目標をひとつにする掲示物が制作されてきたことによって、生徒自身が制作するもののイメージを具体的に持つことができたことによって、自然発生的に生まれた流れであると考えられる。勝利のための目標を書く用紙は、担任が用意した自己紹介カードや2年生の目標を書く用紙とは違い、リーダーと有志の生徒たちが手づくりして配布していた。用紙は、赤組の団のモチーフであった「バラの花」の形をしており、団結力を高めたいという気持ちを込めて制作したことが分かるデザインであった。クラスの仲間の手づくりの用紙ということもあり、用紙を大切に扱う様子も見られた。各々の目標が集まると、それらを一つにするための模造紙をデザインする有志メンバーが集まった。**デザインの中心メンバーはいたものの、毎日代わる代わる多くの生徒が関わりながら掲示物制作に励んでいた**。この時、美術の授業で学習した技法であるこすり絵（フロタージュ）を活用する場面も見られた。掲示物が完成すると、朝礼では拍手が起こり、**用紙づくりや模造紙デザインに**

は関わっていなくとも、自分も目標を書いたクラスの一人であるため、皆で掲示物に関わっていることや、その完成を喜ぶ様子であった。「勝利したい！」という思いが、目に見える形になったことで、行事前も行事後も、生徒たちが自らつくったのだという思いは学習環境にも力強く根付いていくのではないかと考える。



これまでの学級環境づくり

<彩ある学級環境の設定>

担当する学級には、生徒たちが制作した様々な掲示物が貼られていることもあり、担任も、**生徒たちが制作した掲示物がより教室環境の風景として映えていくよう、装飾的な役割を持って学習環境づくりに関わって**いきたいと考えた。3年間の学年目標をキャラクター化したものや、クラスの呼称である松・蘭・菊・梅をキャラクター化したものを各クラスへの所属感、学年への所属感が高まることを願い、彩り豊かな色づかいを大切に
する一方、**学習に支障の出ないように移動可能なマグネット貼付等の掲示方法で装飾**している。視覚的に遊び心ある学習環境は、創造的思考の活性につながったり、自然と生徒たちが寄り集まったりする場になっていくことを期待し、今後も実践していきたい。



これまでの学年フロア環境づくり

<生徒作品がつくる学年フロアの空間>

担当学年では、3年間の学年目標をシンボルマーク化したものを教員が制作し、常時教室内や廊下に掲示している。それに加えて、3年間それぞれに設定されている学年の重点目標を生徒がシンボルマークとしてデザインしたものを毎年ポスターとして拡大して掲示している。生徒が制作したシンボルマークは、年度始めにコンテスト形式（有志）で募集し、学年の生徒全員の投票によって決定したマークである。制作者として、投票者として、学年の生徒の誰もが関わっているシンボルマークを大々的に掲示することで、選ばれた作者である生徒の喜びを実感してもらうことにつなげたい。また、今年度は自分の作品が選ばれずとも、学年の仲間の作品が学年フロアの空間づくりを担っていることで、次年度は自分の作品で学年を盛り上げていきたいという気持ちにつながったり、来年度は作品を応募してみようという意欲の向上に発展してほしいという願いを込めている。生徒の制作物が、学年の誰もが当たり前に行き交う学年フロアの環境のひとつになることで、学年に所属していることへの喜びや連帯感を育むことにつなげていきたい。



これまでの美術室環境づくり

<生徒たちの表現を学習環境にした美術室入り口装飾・

黒板アート>

美術室は、生徒たちの創造的思考がフル活用される空間であってほしいと考える。これは、生徒たちが色彩や形をもとに作品を生み出したり、鑑賞したりする場であることが一番に挙げられるが、それだけではない。教科の特徴として、視覚伝達的表現が多いことがいえるが、生徒たちにとってゼロベースから視覚的な表現として起こすことは非常に困難を伴う。授業を行う者としての願いは、できるだけ生徒自身の日頃の思考や生活など、生徒たち各々の日常をベースに生まれるものからアイデアが深化していくことを願って授業を行っている。そのためには、視覚的な寄り道ができる場の設定であることが、思考の発展、拡散には必要ではないかと考える。「おもしろいことができそう！」や、「いつもとちょっとちがう！」という、生徒たちにとっての非日常空間が、創作意欲を掻き立てるワクワク感、思い切って行動しても良いかもしれないという好奇心につながるのではないだろうか。場づくりの視覚的な工夫として、まず美術室入り口に有志の生徒の作品、美術室で創作する部活動部員の作品、教員が制作した作品を展示している。様々な表情の作品が並ぶが、いずれも授業の成果物としての作品ではなく、生徒たちや教員それぞれが好きのように制作した作品を飾るよう心掛けています。これにより、学校の中のそれぞれの“好き”が視覚的に集結した場であるということを表



したいと考えた。また、美術室の黒板は、数年前から美術室で活動する部活動生徒の黒板アート作品によって埋め尽くされている。この黒板アートは、毎年9月の生徒祭の時期にデザインが更新されるが、生徒たちにとってはこれ以上大きく表現できるキャンバスは他に無いと言っても良いほどで、何日も時間をかけて描かれる力作である。近年は電子黒板やプロジェクター等で十分に授業が行えることもあり、黒板アートは常設のものとなり、美術室の空間で創造的思考を掻き立てる一助を担っていると感じている。

<授業タイトル構想キーワード  >

想像で創造

美術

つくる

大改造計画

カラフル

美術の力で学習環境づくり(仮)

美術の力で2U空間クリエイト♪

アートのパワー

添えて

空間

2U

愛着

学校生活

Classroom

安心
感

美術の力で課題を解決する

魔改造

よりよい

創造

インテリア

マジカル

to ume

教室

飾る教室・つくる美術・よりよい学校生活

飾る

クリエイティブ

デザイン

美術力

彩る

<2024年度 お茶の水女子大学附属中学校公開研究会テーマ>

試行錯誤と創意工夫のある「つくる学び」をつくる (3年研究の2年目)

～創造的思考力を育てる学校づくりへの挑戦～

美術科 教科分科会において大切にしたい視点

- ・教室環境デザインを考えるにあたって、「課題解決」(デザインとしての役割)・「当たり前にもス」(日常を見直す)
・「あったらいいのに」(理想の追求) の3つの視点は、生徒たちにどのようなデザインと向き合う場面や考え方を与えていたか？
- ・教室環境への働きかけの条件を守りながらも、生徒たちはどのようにデザインを演出しようとしていたか
- ・“自分の教室”という、当たりの居場所への安心感や居心地の良さは、何を通じて構築されるのか
- ・教室空間の美術科としてできることとは
- ・クラスで設定したコンセプトは、どうデザインにどう反映し、発展していたか
- ・教室環境デザインとして、常も視界に入ってくるものの色彩や形の配慮についてどう考えるか(インクルーシブ教育
・特別支援としての配慮)
- ・本校ならではの慣例・風習が生徒に視覚的、心理的に与えているもの

Memo

